

午後Ⅰ試験

問1

問1では、国際物流会社におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）について出題した。全体として正答率は平均的で、状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問2(2)は、正答率が低く、“小さなカスタマイズ要望でも大きな開発につながる”という解答が見受けられた。ここでは、顧客からのカスタマイズ要望が頻繁にある点と、それに迅速に応える必要がある点に着目して、越境ECシステムを再構築するA社の考えを理解してほしい。

設問3では、“消費者が越境ECサービスを利用しやすくなる”という解答が散見された。A社はSNSのアカウントをもつ消費者が注文しやすいようにソーシャルサインインを導入し、テストマーケティングを行っている。具体的にターゲットを定めて、APIエコノミーを活用している点を理解してほしい。

ITストラテジストは、対象となる事業・業務環境を分析、評価した上で、デジタル技術の的確な活用を判断し、事業戦略を推進する能力を高めてほしい。

問2

問2では、製造業の情報システム戦略の策定について出題した。全体として正答率は平均的で、状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問2(1)は、正答率が低かった。M社内の問題である“手作業で時間が掛かる”や“集計精度が良くない”など、の解決を目的とした解答が見受けられた。SC基盤の目的には、資材のトレーサビリティ確保のほかに、サプライチェーン全体での炭素排出量・削減目標の正しい算定が背景にあることに気付いてほしい。

設問2(2)は、正答率が低かった。“安定的な資材の確保のため”という解答が見受けられた。これは購買システムの改修で実現できる機能であり、BCシステムを活用する理由ではないことを理解してほしい。

設問4(1)は、“炭素排出量、内部統制インシデント情報”などの解答が散見された。具体的な情報項目ではなく、M社の取組における実際の問題点を読み取って解答してほしい。

ITストラテジストは、社内外の環境変化に応じて、ITを活用した情報戦略を策定する能力を高めてほしい。

問3

問3では、スーパーマーケットにおけるITを活用した事業拡大について出題した。全体として正答率は平均的で、状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問1(2)は正答率が低かった。生産者管理システムや動画ラーニングシステムに関する解答が散見された。実店舗の店長がECサイトへの支援に積極的になれない理由に気付いてほしい。

設問3(3)は正答率がやや低かった。動画ラーニングシステムはECサイトの施策ではなく、実店舗の施策であるということを理解していない解答が見受けられた。施策ごとに何を目的にしているのかを理解して解答してほしい。

ITストラテジストは、業種ごとの事業特性を踏まえて、経営戦略の実現に向けたITを活用した事業戦略を策定する能力を高めてほしい。

問4

問4では、AIを利用した気象予測システムの事業計画の立案について出題した。全体として正答率は平均的で、状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問1(3)は、正答率が高かったが、組織体制面でない対策の解答も一部に見受けられた。設問で求められている内容と本文記述をよく理解して解答してほしい。

設問2(2)は、正答率が平均的であったが、都市部の特徴である土地の起伏や構成要素が頻繁に変わる点に言及していない解答が散見された。段階を経てシステムを市場に展開する場合においては、それぞれの段階で考慮すべき点を理解してほしい。

設問3(1)は、D社の特徴の正答率が高かったが、市場の状況の正答率は低かった。事業戦略の策定で示された市場開拓の対象を考慮して解答してほしい。

ITストラテジストは、社会状況や技術動向を基に、新製品の企画、新規市場開拓、協業企業・提携企業との関係構築、及び将来の事業の拡大も含めた戦略的な事業計画を立案し、推進する能力を高めてほしい。